

第1学年	教科名	使用教科書	光村図書 国語I	担当教員	池上・福嶋
------	-----	-------	----------	------	-------

【身につく力】 豊かな「自己表現力」一思いや考えを正しく伝え合う力	評価	評価の観点	評価の方法
	知識・技能	言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、我が国の言語文化に関する知識及び技能を身につけ、様々な場面で活用する力を取得しているかを評価する。	・定期テスト ・小テスト ・ノートや提出物
	思考・判断・表現	言語を通して正確に理解したり適切に表現する力や、言語をてがかりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力がついているかを評価する。	・定期テスト ・授業内課題 ・レポートや新聞作成などの、「学習した事項を活用して取り組む」課題
【学習目標】 (1)人との関わりに必要な国語について、その文化や特徴を理解し適切に使うことができる。 (2)人との関わりの中で正しく伝え合う力を高め、より深い思考力や想像力を養う。 (3)言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、言葉の能力の向上を図る態度を養う。	主体的に学習に取り組む態度	授業の課題や目標を達成するために自分が工夫して取り組んだことや意識したことを振り返ることができるか、学習によって得た新たな見解や自身の変容について捉えることができているかを評価する。また、学習したことをきっかけに、さらに意欲的に学習しようとしているかを評価する。	・振り返りシートの記述 ・課題への取組

【授業の進め方（授業のポイント）】 ・物語文や論説文、古文の正確な読み取りを通して様々な人々の経験や考え方に触れ、理解や批判をしながら、自身の「考え方」を形にしていきます。 ・授業の中で触れる漢字や文法、ことわざなどを身につけることは、自身の「考え方」をより豊かに、正確に表現するために必要なものです。それは「暗記して終わるもの」ではなく、日常で使ってこそ、本当の力になります。意識して使っていきましょう。 ・文章を読んで内容を理解するだけでなく、読んだことに対する自分の思いや考えを言葉にしていきます。繰り返し自分の考えを言葉にしていくことで、思考力や表現力を高めていきます。これを積み重ねていくことで「豊かな自己表現力」を実現していきます。	【家庭学習について】 ・教科書を読んで意味が分からなかった語句に興味を持ち調べたり、聞いたりするだけでも、【学習目標】の(1)の達成に繋がります。また、漢字についても意識的に使うことで自分のものになります。 ・本や新聞などの文章を読んで様々な人の考え方に触れ、それについて思いを巡らせることが(2)の達成に繋がります。ぜひたくさんの方の文章に触れてください。 ・模試や受験では、「初めて見る文章」を読んで、問題に取り組むことになるので、なるべく色々なジャンルの文章を読み、たくさん問題を解いていくことが大切です。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1学期		2学期		3学期	
1 学びをひらく ①始まりの風 ②音声のしくみや働き ③漢字の組み立てと部首 ④図書室の利用について 2 新しい視点で ①ダイコンは大きな根？ ②ちょっと立ち止まって ③指示する語句と接続する語句 3 言葉に立ち止まる ①空の詩 三編 ②比喩で広がる言葉の世界 ③様々な表現技法 ④言葉のまとまりを考えよう	①場面に沿って、主人公の心情変化を捉えることができる（心情曲線等を使い、視覚化するとともに、それぞれ心情を言葉で示し、また、変化の理由を説明できる）。 ②音声のしくみを理解し、活用できる。 ③部首に注目して、漢字の意味や読み方を推測することができる。 ④図書室の役割や本の分類について理解し、活用できる。 ①段落や比較の役割に注目して、内容を捉えることができる（段落の役割とともに、内容をわかりやすく説明できる）。 ②文章の構成（主張と事例の関係を理解）に着目して、要旨を捉えることができる（主張と事例を区別して短くまとめることができる）。 ③指事する語句と接続する語句を理解し、活用することができる。 ①詩の表現の効果に注目し、詩の情景を捉える（表現の効果がどのように詩に作用しているか説明できる）。 ②文章の中心となる部分を見つけ、要旨を捉えることができる（中心部分を理解し、短くまとめることができる）。 ③様々な表現技法を理解し、活用することができる。 ④言葉の単位について理解し、正しく活用することができる。	4 心の動き ①大人になれなかった弟たちに… ②星の花が降るころに ③方言と共通語 ④漢字の音訓・漢字に親しもう 5 筋道を立てて ①「言葉」をもつ鳥、シジウカラ ②根拠を明確にして書こう ③言葉の関係を考えよう 6 いにしへの心にふれる ①いろは歌 ②蓬萊の玉の枝 ③今に生きる言葉	①登場人物の行動や風景の描写、時代背景を基に、心情を捉えることができる（時代背景を理解し、読み取った描写から心情を言葉に表すことができる）。 ②場面と場面、場面と描写を結びつけて、作品を読み取ることができる。 ③地域による言葉の違いを知り、自分達の言葉（方言）について考えることができる。 ④漢字の音訓について理解し、漢字の活用の幅を広げることができる（日常で意識して使用することができる）。 ①筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解することができる。また、図表の情報とあわせて内容を読み取ることができる。 ②①の学習を活かし、根拠を明らかにして文章を書くことができる。 ③文の組み立てを理解し、推敲することで正確な文をつくることができる。 ①音読を通して、古典の言葉の響きや調子を理解することができる。 ②仮名遣いや古語を理解し、古典の世界を捉えることができる（古典の人々の風習や考え方を理解し、説明できる）。 ③故事成語を理解し、自分の生活と結びつけて、言葉を増やすことができる。	7 価値を見いだす ①「不便」の価値を見つめ直す ②漢字に親しもう ③話題や展開を捉えて話し合おう 8 自分を見つめる ①少年の日の思い出 ②二十歳になった日	①必要な情報を選び、結びつけて要約することができる。 ②中学校で学習した漢字を使って、推敲し、文を書くことができる。 ③話題や展開を捉えて繰り返し話し合うことができる。 ①場面の展開や表現の効果に着目し、登場人物のものの見方について自分の意見を伝え、話し合うことで深めることができる。 ②随筆の構成や効果について考え、読み深めることができる。

第1学年	教科名	使用教科書	「中学生の地理」「中学生の歴史」(ともに帝国書院)	担当教員	佐飛 紀子・松山颯一郎
------	-----	-------	---------------------------	------	-------------

付けたい 資質・能力	社会参画力	評価	評価の観点	評価の方法
【身に付く力】 ・他者との対話、諸資料と向き合うことで、当たり前と思っていることを問い直したり、捉え直す。 ・社会的事象に対して抱いた課題を、自分の力で批判的に解釈・評価する。 ・時間をかけて深く考える中で、自分の考えを深めて、自分の将来を見据えて考え続けていく。		知識・技能	○社会的事象について(～は～である)理解し、その知識を身につけている。 ・用語・語句や特色・意味など概念に関わる知識 ○社会的事象などについて調べ、まとめる技能をつけている。 ・課題の解決に必要な情報を集める。【収集する】 ・収集した情報を見方・考え方を働かせて読み取る【読み取る】 ・読み取った情報を課題解決に向けてまとめる【まとめる】	・定期テストの点数 ・ワーク ・パフォーマンス課題
【学習目標】 ・社会参画するための力の基礎を身に付ける。 →これからの社会の創り手として、社会の中で活躍・貢献する。 ・よりよい社会を作るために主体的に社会と関わること。 →社会のことがらを自分事として捉える。		思考・判断 ・表現	○【思考力・判断力】に関わって ・社会的事象をとらえ、社会的事象の意味や意義、それぞれの関連について、考察する。 ・社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想(複数の立場や意見を踏まえて選択・判断)している。 ○【表現力】に関わって ・適切な資料・内容や表現方法を選び、根拠や理由を明確にして、論理的に説明する。 ・仲間との話し合いで、仲間の主張を踏まえたり、取り入れたりして、立場や根拠を明確にして主張・議論している。→社会参画の視点	・定期テストの点数 ・パフォーマンス課題
		主体的に学習に 取り組む態度	○学習単元・課題について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究している。 ・単元の「見直し」をもつ ・他者と協働しながら粘り強く考える(試行錯誤しながらでも考えを持つ) ・振り返りで学んだことの意味について考える。 ○よりよい社会を考え、学んだことを生かそうとする。 ・学んだことを、社会生活にどう生かそうとするか。 ・よりよい社会を創るために、自分で「新たな問い」を作る	・振り返り ・パフォーマンス課題

【授業の進め方(授業のポイント)】
 ＊基本的には、教科書に沿って教科書のページ順に学習する。
 ＊進度の目安は1時間で見開き2ページ進めることを原則とする。
 ＊ノートを書く際に、「疑問に思ったこと」、「学んだこと」など、個人で考えることを積極的にメモを取って大切にすること。
 →自分で考える習慣が自分を「深化」させ、振り返りを書くための手立てとなる。

【家庭学習について】
 ＊自主学習ワークは、1つずつ〇つけまですること。
 ・まずは自分の力で取り組むこと。漢字で分からないものは、かな交じりで書く。
 ・その後、教科書を見て分からなかったところを解く。→正しい漢字に訂正する。
 ・最後に答え合わせをして、教科書を見て分からなかった部分はチェックしておく。
 ＊学習したことを多面的につなげるため社会的事象について、常に「アンテナ」を高く持つこと。

1学期		2学期		3学期	
【地理的分野】 第1部 世界と日本の地域構成 ・世界の姿 第2部 世界のさまざまな地域 ・人々の生活と環境 【歴史的分野】 第1章 歴史のとらえ方と調べ方 第2章 古代国家の成立と東アジア	国を1つ選んで、その国の「自然環境」や「文化」の視点から1つあげて特徴を説明し、緯度経度を使って正確な位置を示すことができる。 「なぜ世界各地では人々の生活に多様な特色が見られるのか」の問いについて「自然」や「衣食住」の視点を用いてその答えを述べる。 ・資料に描かれた人物や出来事から、時代を区分することができる。 ・縄文・弥生・奈良・平安の想像図を比較したり、原因と結果から、「国づくりが行われた古代の社会は時代ごとにどんな特色があったのだろうか」の問いに、国づくりの視点に注目して時代ごとにまとめる。	【地理的分野】 第2章 世界の諸地域 ・アジア州 ・ヨーロッパ州 【歴史的分野】 第3章 武家政権の成長と東アジア	・「アジア州に工場をつくらう」の課題を通して、工場を建てる場所について、その理由をアジア州の地域の特色を根拠にして説明する。 ・周りの意見を聞いて、自分の意見を強化したり、変更した理由を説明する。 「イギリスのEU脱退は成功したか・していないか？」の課題を通して、EUの特徴を踏まえた資料を適切に選んで、根拠を持って課題の理由を説明する。 ・室町時代と鎌倉時代の想像図を比較して、何が変わり、何が変わらなかったかを整理する。 ・変わった点について、自分で予想を立てて、学習した内容を踏まえて、その答えを述べる。	【地理的分野】 第2章 世界の諸地域 ・アフリカ州 ・北アメリカ州 ・南アメリカ州 ・オセアニア州 第1部 世界と日本の地域構成 ・日本の姿 【歴史的分野】 第4章 武家政権の展開と世界の動き ・大航海時代によって結びつく世界 ・戦乱から全国統一へ	・「アフリカ州にとって、必要な支援とは」の課題を通して、ヨーロッパ諸国との関係について歴史的背景を踏まえて支援策を提案する。 ・「アメリカの多国籍企業の分析をしよう」の課題を通して、企業が持つ特徴を「農業」「工業」「文化・生活」の視点でまとめる。 ・「ブラジルは環境保全か経済成長か」の課題を通して、どちらを優先すべきかの根拠を説明するための資料を適切に選び読み取る。 ・「オーストラリアでは社会にどのような変化があったか」について、オーストラリアの生活や文化の特色を示す資料を使って背景を説明する。 ・日本の位置を複数の方法で説明し、領域と排他的経済を広めた背景を説明する。 ・「ヨーロッパの国々による世界進出は日本にどんな影響を与えただろう」について、日本の「生活」や「文化」の視点で考えをまとめる。 ・安土桃山時代の想像図を見て、室町時代と比べて、疑問に感じた課題を設定して、学習した内容を踏まえてその問いに答えることができる。

第1学年	教科名	使用教科書	新編 新しい数学I(東京書籍)	担当教員	野呂 潤平・竹谷 範子
------	-----	-------	-----------------	------	-------------

付けたい 資質・能力	抽象的論理力 ～具体的な事象から本質を見抜き、論理的に応用する力～	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する。	定期テスト 小テスト レポート
		思考・判断 ・表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているかを評価する。	定期テスト 小テスト レポート
		主体的に学習に 取り組む態度	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの変容を見出し、学習を調整しようとする態度や、他の単元や他の教科、日常生活などから現在の単元のつながりや現在の単元の良さを見出すなど、多面的に捉えようとする態度を評価する。	レポート 振り返り

【授業の進め方(授業のポイント)】

- ・ノートの取り方を工夫する。 ➡ 黒板に書かれたことだけでなく、自分が大切だと思ったことや気づいたことも記述する。
- ・分からないことを質問する。 ➡ 授業で分からなかったことは、そのままにせずに必ず質問をして理解する。
- ・毎時間の授業の振り返りをする。 ➡ 授業の振り返りをする中で、授業のポイントだけでなく、今の自分の学習状況やこれからの学習の進め方についても振り返りをする。

【家庭学習について】

- ・問題を解くときは、後で間違えた箇所が分かるように途中式を書く。
- ・家庭学習を習慣化する。(特に、復習を大切にすること)
- ・基本的な問題は、繰り返し練習をする。
- ・課題は必ず期限を守り、やり切ること。

1学期		2学期		3学期	
0章 算数から数学へ 1節 整数の性質	・自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見いだし表現することができる。	3章 方程式 1節 方程式とその解き方 2節 1次方程式の利用	・等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・一元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。 ・一元一次方程式を問題解決の過程で活用することの良さを考察し、表現することができる。	5章 平面図形 3節 おうぎ形	・作図を通して、平面図形の性質を捉えることの良さを考察し、説明しようとしている。
1章 正の数・負の数 1節 正負の数 2節 加法と減法 3節 乗法と除法 4節 正負の数の利用	・算数で学習した数の四則計算の方法を負の数の領域までひろげて考察することができる。 ・正の数と負の数を学ぶことの良さを、必要性や具体的な問題を解く過程から考察し表現することができる。	4章 比例と反比例 1節 関数と比例・反比例 2節 比例の性質と調べ方 3節 反比例の性質と調べ方 4節 比例と反比例の利用	・比例・反比例として捉えられる2つの数量について、表・式・グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ・比例・反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 ・具体的な事象から比例・反比例の関係を見出し、論理的に応用しようとしている。	6章 空間図形 1節 いろいろな立体 2節 立体の見方と調べ方 3節 立体の体積と表面積	・空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えたり、空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見出したりすることができる。 ・立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現することができる。
2章 文字の式 1節 文字を使った式 2節 文字式の計算 3節 文字式の利用	・具体的な場面から、文字を用いた式の計算の方法を考察し表現することができる。 ・具体的な場面から、文字を用いた式や図を活用して考え、説明することができる。 ・文字を用いた式を活用することの良さについて考察し表現することができる。	5章 平面図形 1節 図形の移動 2節 基本の作図	・基本的な作図や図形の移動を具体的な場面で活用することができる。 ・図形の移動に着目し、移動を用いて図形の面積を求めることの良さについて説明しようとしている。	7章 データの活用 1節 データの整理と分析 2節 データの活用 3節 ことからの起こりやすさ	・目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。 ・多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる。 ・データを活用して、物事を考えることの良さを考察し、説明しようとしている。

第1学年	教科名	使用教科書	未来へひろがるサイエンスI(啓林館)	担当教員	矢富亮・西尾雅至
------	-----	-------	--------------------	------	----------

付けたい 資質・能力	論理的思考力	評価	評価の観点	評価の方法	
		【身に付く力】 (1)主体的に自然事象とかかわり、それらを科学的に探究しようとする態度。 (2)観察、実験を実行し処理する力、その結果を分析・解釈する力、そしてそれらの規則性や傾向を見だし、課題や仮説を筋道立てて考える力。 (3)学んだことを次の課題や日常生活に活用しようとする態度。	知識・技能	見通しをもって観察、実験などを行い、自然の事象・現象に対する概念や原理・法則の理解するとともに、探究の過程を通して科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	・定期テスト ・小テスト ・パフォーマンス課題
		【学習目標】 (1)自然の事象・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)自然の事象・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	思考・判断 ・表現	問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、規則性、関係性、共通点や相違点、分類するための観点や基準を見いだして表現している。	・定期テスト ・観察実験レポート ・パフォーマンス課題
			主体的に学習に 取り組む態度	物質やエネルギーに関する事象・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしている。生命や地球に関する事象・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしている。生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。振り返りシートを用いて、学習前後を視覚的に比較し、適切な自己評価ができる。	・観察実験レポート ・課題への取り組み ・振り返りシート

【授業の進め方(授業のポイント)】 (1)ノートの取り方を工夫する。 評価物に書かれているノートですが、黒板に書かれたことだけでなく、自分が大切だと思ったことや気づいたことも、メモとして記述するように意識してください。家庭での学習の際に、どこが重要か自分で分かるようにマーカーを使用した強調、ポイントのまとめ欄を作成する等、自分だけのノートが作成できるといいです。 (2)観察実験レポートや課題 観察、実験を行った際にレポートを課題とし、次回の授業までの提出にします。考察は自らまたは仲間でも考え考察したことを記入するものであるが、仲間や教科書の記述を丸写しするのは原則禁止とし、自ら考えたことを書くようにしてください。考察での自身の考えが正しいか否かも大切ですが、観察、実験を通して考えたことを自らの言葉で表現する力を身につけて欲しいと考えています。それが相手に説明する力となり、仲間との協働性が養われます。 (3)分からないことを質問する。 授業で分からなかったことはそのままにせず、友人や教員必ず質問をするようにしましょう。また質問は後回しにしないようにしましょう。	【家庭学習について】 (1)人間の集中力は最大で50分と言われています。50分はとにかく集中し10分休憩、再び50分学習し10分休憩といったサイクルで学習するのがおすすめです。 (2)予習が復習かを尋ねられたら、家庭では復習に重点を置いて計画的に勉強をしたらいいでしょう。能率的に勉強するためには、1週間ごとの内容を見直し、重要語句や公式を覚えておくのがよいでしょう。そのときには、自身で「まとめノート」を作成する方法が効果的です。 (3)定期テストについては、1週間以上前から取り組み、ノートと教科書で復習した後、問題集の「よくわかる理科の学習」の問題や、教科書に載っている問題を解いて理解できているか確認するようにしましょう。「教科書」「よくわかる理科の学習」にのっている力だめしや、まとめの問いといった発展問題も積極的に取り組んでみましょう。テスト後は間違えた箇所を見直し、解き直しをノートにまとめることで、3学年時に各学年の自分の苦手箇所が素早く分かるようになります。
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1学期		2学期		3学期	
自然の中にあふれる生命 ・身のまわりの生物の観察 ・生物のなかま分けのしかた	・身近な生物に関心をもち、ルーペを正しく使って観察している。 ・観察対象の特徴をスケッチなどで記録をしていたり、図表などで示したりしている。	・水溶液の性質 ・物質のすがたとその変化	・質量パーセント濃度の定義を説明している。 ・状態変化では、質量は変化しないことについて説明している。	活きている地球 ・身近な大地 ・ゆれる大地 ・火をふく大地 ・語る大地	・火山の形成・移動に、プレートの動きなどが関連していることを考察している。 ・日本列島付近の震源の分布の特徴を、海洋プレートの沈みこみと関連づけて考察している。 ・マグマの冷え方により、火山岩と深成岩の組織の違いができるしくみを説明している。 ・粒の大きさ、塩酸との反応などに着目して、堆積岩の特徴を理解し記録している。 ・化石を含む地層が堆積した環境や地質年代を推測し文章化している。
いろいろな生物とその共通点 ・植物の特徴と分類 ・動物の特徴と分類	・種子植物を分類かつ比較して、特徴の共通点と相違点を示すことができる。 ・脊椎動物が5つに分類できることを理解し、説明している。 ・節足動物と軟体動物の特徴について説明している。	光・音・力による現象 ・光による現象 ・音による現象 ・力による現象	・入射角と反射角が等しいことを理解し数値化している。 ・物体と凸レンズの距離と像の大きさなどを踏まえて、像の向き方を理解し作図している。 ・モノコードを使って、音の大きさや高さの規則性を調べている。 ・モノコードによる実験から、振幅と振動数の規則性を調べている。 ・物体に力がはたらくと、物体が変形したり、支えられたりすることを理解している。 ・力の大きさはばねの変形の大きさで表すことができ、グラフ化している。 ・力は矢印の大きさと向きで表せることを理解し作図している。		
身のまわりの物質 ・いろいろな物質とその性質 ・いろいろな気体とその性質	・有機物と無機物、金属と非金属の違いについて理解している。 ・未知の気体を調べる実験を正しく行い、結果からその気体を判断している。				

第1学年	音楽	使用教科書	中学生の音楽I・中学生の器楽	担当教員	平田 麻美
------	----	-------	----------------	------	-------

付けたい 資質・能力	音楽表現力	評価の観点	評価の内容・方法	評価の場面・材料
【身に付く力】 ・しっかりとした発声で仲間とのびのび歌う力(歌唱・合唱) ・アルトリコーダーの運指を理解して演奏する力(器楽) ・音楽の良さを味わい、魅力を文章で表現する力(鑑賞) ・音符やリズムの組み合わせを工夫する力(創作)		知識・技能	【知識】曲の背景や作曲家について、学期の奏法についてなど、「音楽表現力」につながる知識がどのくらい身についているかを筆記テストで測ります。 【技能】歌唱・合唱や器楽や創作について、授業で取り組んだことが「音楽表現力」としてどのくらい身についているかを実技テストで測ります。	実技テスト (歌唱・合唱、アルトリコーダー、創作) 筆記テスト
【学習目標】 ・曲想と音楽の構造などとの関わりや音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした「音楽表現」をするために必要な歌唱・器楽・創作の技能を身につける。 ・「音楽表現」を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴く力を身につける。 ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、「音楽表現」活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		思考・判断・表現	歌唱・合唱や器楽や創作では「音楽表現」をどのように創意工夫しているかについて記述した内容を評価します。鑑賞活動では音楽を形づくっている要素をもとにしながら、音楽の良さや美しさを味わって聴き、曲の魅力などを記述した内容を評価します。	鑑賞曲の各ワークシート (春、魔王、六段の調など) 合唱のワークシート (大切なものなど合唱曲)
		主体的に学習に取り組む態度	「音楽表現力」の向上に向けて知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習をどのように調整しながら学ぼうとしているかについて記述した内容を評価します。	振り返りシート (歌唱・合唱、鑑賞、アルトリコーダー、創作)

【授業の進め方(授業のポイント)】

①歌唱・合唱や器楽では、曲ごとに学ぶテーマを決めます。合唱は、まずしっかりと声を出すことを目標にしましょう。実技テストも実施しますので練習の成果を発揮できるように練習を大切にしましょう。また、お互いの表現を聞き合うこと、アドバイスをを行うことで「音楽表現力」を深めましょう。

②鑑賞では、音楽の構造や雰囲気を感じ取りながらよさや美しさを味わい、曲の魅力や文章で表現しましょう。鑑賞で学んだことを「音楽表現力」へとつなげましょう。

③創作では、四分音符や四分休符、八分休符をつかって簡単なリズム創作をします。テーマに沿って、自分なりの工夫をしましょう。音楽を構造的に捉え「音楽表現力」の礎にしましょう。

【家庭学習について】

生活の中にあふれている音楽の中に、授業で学んだ曲や、学んだ曲とよく似た構造をもつ音楽が隠れています。どんな構造をした音楽なのか、という視点を持って聴くと、学習がさらに深まります。自分の好きな音楽、あまり聴かないジャンルの音楽などさまざまなありますが、ぜひ学んだ知識を活かして聴いてみましょう。そのことが「音楽表現力」を高めることにつながります。

1学期		2学期		3学期	
【歌唱・合唱】 「校歌」 「主人は冷たい土の中に」	「校歌」…学校の歴史や作曲家などを学び、1番から3番まで歌います。 bの姿…各フレーズごとに、概ね正しい音程で歌える。 聴き合いで達成度を確認し、完成を目指している。	【歌唱・合唱】 「文化祭学年合唱曲」※未定 「赤とんぼ」	「文化祭合唱曲」…学年合唱の曲についてパートに分かれて練習し完成を目指します。 bの姿…各フレーズごとに、概ね正しい音程で歌える。 聴き合いで達成度を確認し、完成を目指している。	【歌唱・合唱】 「合唱曲」※未定 「浜辺の歌」	「合唱曲」…混声三部合唱の曲に挑戦します。「声の響き」を腹式呼吸の視点から研究します。 bの姿…各フレーズごとに、概ね正しい音程で歌える。 聴き合いで達成度を確認し、完成を目指している。
【鑑賞】 「春」	「主人は冷たい土の中に」…二部形式を学び、歌詞と旋律の関わりに注目します。 bの姿…二部形式の変化の場面に注目し、なぜ変化したと感じるのか、自分の考えを記述している。	【鑑賞】 「魔王」	「赤とんぼ」…旋律と歌詞がどのように関連しているのかグループで分析し、考えたことの音楽的な根拠をワークシートに記入します。 bの姿…強弱やプレスに着目し、どのように表現するか自分の考えを記述している。	【鑑賞】 「六段の調」	「浜辺の歌」…「主人は冷たい土の中に」と同じく二部形式で作曲されていること、8分の6拍子という特徴的な拍子について学び、表現を工夫します。 bの姿…拍子について、4拍子との違いは何かについて自分の考えを記述している。
【アルトリコーダー】 ドレミファソの運指 「よろこびのうた」	「春」…情景がどのように音楽で表現されているのかを演奏や音色から感じ取り、曲の魅力や文章で表現します。 bの姿…音楽を形づくっている要素と音楽から感じたことを関連付けて、自分の考えを記述している。	【アルトリコーダー】 「聖者の行進」	「魔王」…登場人物の音楽的な特徴を探り、歌唱表現の工夫や曲の魅力や文章で表現します。 bの姿…登場人物の特徴を感じ、それは、どの音楽を形づくっている要素から感じたか記述している。	【アルトリコーダー】 ※2学期から継続	「聖者の行進」…「主人は冷たい土の中に」と同じく二部形式で作曲されていること、8分の6拍子という特徴的な拍子について学び、表現を工夫します。 bの姿…奏法に注目し、曲のどんな場面で使われているか、どんな効果があるかどうかについて、自分の考えを記述している。
【創作】 リズム創作	アルトリコーダー…新しい運指を理解し、ドレミファソを使った「よろこびのうた」を演奏します。 bの姿…新しい運指を使って「よろこびのうた」を演奏できる。	【創作】 ※1学期から継続	アルトリコーダー…ドレミファソを使って「聖者の行進」の演奏をします。パートに分かれて掛け合いの部分のリズムの習得を目指します。 bの姿…リズムやタイミングを理解し、条件をクリアしながらA1パートを最後まで吹ける。		リズム創作…2学期から練習している「聖者の行進」の完成を目指します。※2学期から継続
	リズム創作…終わった感じのするリズム創作をします。また、なぜ「終わった感じ」とするのか、根拠を文章で記述します。 bの姿…自分の作ったリズムを演奏できる。		リズム創作…1学期の創作の作品の完成を目指します。※1学期から継続		アルトリコーダー…2学期から練習している「聖者の行進」の完成を目指します。※2学期から継続

第1学年	教科名	使用教科書	美術I (光村図書)	担当教員	藤川真奈美
------	-----	-------	------------	------	-------

付けたい 資質・能力 思いや考えを伝える創造的な表現力	評価	評価の観点	評価の方法
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・創作に必要な知識と技能を身につけ、自分の制作に生かしているか。 ・自分の作りたいものを、工夫して創造的に作っているか。 	作品 ワークシート 定期テスト
	思考・判断 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら作品のテーマやアイデアを発想し、それを深めて制作しているか。 ・作品を鑑賞したり他の人の意見を知るなどして、良さや新しい発見を感じ取れるか。 	作品のデザインやアイデア 定期テスト ワークシート
	主体的に学習に 取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・もの作りを楽しみ、丁寧に仕上げようと工夫して、資料の収集、制作活動の計画や作品の完成に向けて、創意工夫が出来ているか。 ・自分の目標に向かって、新たな気づきや学びを得ているか。 ・学習計画に沿って、自己調整しながら作品作りに取り組んでいるか。 	作品への取り組みの様子 ワークシート 振り返りシート

【授業の進め方(授業のポイント)】 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な芸術作品を鑑賞し、自身の制作に生かす。 (こんな作品を作ってみたい、どうやってつくるかなど、探究して作品を作っていく) ・さまざまな感性や表現があることを知り、表現を楽しんだり深めたりする。 ・授業ごとに学習を振り返り、気づきや思考の深まりを具体的に記録していく。 ・マッピングワークシートやプランニングワークシートを活用し、スモールステップで制作を進める。 	【家庭学習について】 <ul style="list-style-type: none"> ・作りたいもののイメージを持ち、日常生活の中でアンテナを張って過ごす。 ・作りたいものが決まったら、情報や資料を積極的に収集する。
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1学期		2学期		3学期	
・平面構成 ・抽象表現の良さを味わい、音楽やスポーツをヒントに動きや広がりのある絵をデザインする。 ・鑑賞「抽象絵画」 ・カンディンスキー、パウル・クレーなどの作品鑑賞を通して、抽象絵画の良さや面白さを味わう。	・直線や曲線を使って、動きや広がり、奥行きのある画面を構成できている。(抽象的な表現の良さを理解し、様々な工夫をして自分なりの構図を作り出す。色の特徴や効果を学習し、学んだことを生かして、色を効果的に使って作品を仕上げている。) ・抽象表現の良さや面白さに気づき、美術の見方や考え方を広げるような気づきがワークシートに書いている。	・鑑賞「風神雷神」 ・日本の美術文化の造形的なよさや美しさ、特性などを感じ取り、日本美術についての見方や感じ方を広げる。 ・木彫 ・木材の特徴を生かし、自分としての意味や価値を見出して木彫作品を制作する。	・3つの時代・作者の「風神雷神」を比較することで、造形的な良さに気づき、それぞれの作者の意図や工夫について、自分の言葉でワークシートに書いている。 ・木彫のコツをつかみ、形などがもたらす効果を意識しながら試行錯誤を重ね、自分が思う形になるように工夫して、完成までの見通しをもって作品を作っている。	・文字で楽しく伝える ・絵文字のデザインやロゴマークなどのデザインの工夫について学ぶ。 ・「ポスター」制作のプランニング ・学習したレタリング、構図、色彩の学習を生かして、デザインの構成を考える。 ・視覚伝達デザインの基礎について学ぶ	・日常の中の文字デザインの工夫や良さに気づき、自分のオリジナル絵文字を効果的に制作している。 ・伝える目的に合った言葉や絵の構成を考え、それをよりよく表現するために、形や色が感情にもたらす効果や、わかりやすさと美しさなどの調和、統一感などを多様な視点から考え、ポスターの設計図を作っている。

第1学年	保健体育	使用教科書	新しい保健体育(東京書籍)	担当教員	岡崎 令依
------	------	-------	---------------	------	-------

付きたい 資質・能力	協力する力	評価の観点	評価の内容・方法	評価の場面・材料
【身に付く力】 基礎的・基本的な体力 自身の目標に向けて挑戦する力 仲間と協力して課題を解決する力 健康的な生活を送るための力		知識・技能	種目の基本用語や技術の名称、ルールを理解しているか、健康な生活を送るための知識を習得しているかを評価する。 基本的な技術を習得し、それを実践できるか、また、試合や記録会で身に付けた知識や技能を生かして表現できるかを評価する。	定期テスト 実技テスト 試合の中で技能を発揮できているかどうかを観察
		思考・判断 ・表現	知識や技能を活用し、ペアやグループでの観察やタブレットの動画を見て、自身の課題を発見し、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりすることができるかを評価する。	定期テスト 学習カード グループ、ペアでの話し合い活動で仲間の課題や出来映えを伝えているかを観察
		主体的に学習に 取り組む態度	各領域に積極的に取り組むことを通し、自身の課題の発見や克服のために粘り強く練習に取り組む姿や、記録の向上に努めている姿、仲間と協力している姿勢を評価する。	授業の観察 学習カード 保健プリントの 記述内容

【授業の進め方(授業のポイント)】

- 準備運動や補強運動を通して、怪我の防止や基礎的な筋力や体力の向上に繋げる。
- 基礎的・基本的な技術を習得に向けて、自他の課題と向き合いながら取り組む。
- ペアやグループの取り組みを積極的におこなう。
- 話し合い活動や振り返りを通して、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりする。

【家庭学習について】

保健分野で学ぶ知識をもとにして、基本的な生活習慣の確立や健康的な生活を送ること。

1学期		2学期		3学期	
【体育】 体づくり運動	新体カテスト ・自身の体力の課題を知る。 集団行動 ・整列、準備運動等の確認。	【体育】 陸上競技	ハードル走 ・自分にあったインターバルでリズムカルに越すことができる。 バレーボール ・ゲームに必要な基本的な技能を身に付ける。 ・正しいフォームを習得する。 ・ひざを使ってパスをすることができる。	【体育】 陸上競技	長距離走 ・ペースを守って走り、記録を向上することができる。 サッカー
器械運動	マット運動 ・側方倒立回転・倒立・片足正面水平立ちなどの基本的な技を滑らかにこなうことができる。 ・倒立前転ができる。	球技		球技	・ゲームに必要な基本技能を身に付ける。正しいフォームを習得する。 ・狙った位置にパスを通すことができる。
球技	ソフトボール ・基本的なバット操作、ボール操作を身に着ける。 ・バットの芯に当ててボールを飛ばすために、スタンスやスイングの軌道を意識して練習に粘り強く取り組んでいる。	ダンス	創作ダンス・現代的なリズムのダンス ・リズムの特徴を捉え、リズムに乗って全身で踊ることができる。	【保健】 2章 心身の機能の発達と心の健康	・思春期の心と体の変化や、性への関心に対して、どのように向き合えばよいか自身の考え、まとめることができる。 ・ストレスが心身に与える影響を理解し、心の健康のために自身ができる対処方法を考え、まとめることができる。
		武道	柔道 ・柔道の特性を理解し、基本動作(受け身)を習得する。 ・後ろ受け身ができる。	【体育理論】 1章 運動やスポーツの多様性	・運動やスポーツには、「する」「みる」「支える」「知る」という、多様な関わり方や楽しみ方があることを理解し、自身が今後どのようにスポーツと関わっていくかを考え、まとめることができる。
		【保健】 1章 健康な生活と疾病の予防①	健康の成り立ちと疾病の発生要因 健康には、運動・食生活・睡眠及び休養が深く関わっていることを理解し、健康の保持増進のために、自身がどのようにすればよいか考え、まとめることができる。		

第1学年	保健体育	使用教科書	新しい保健体育(東京書籍)	担当教員	清水 さより・伊藤 亜佐子
------	------	-------	---------------	------	---------------

付けたい 資質・能力	協力する力	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	種目の基本用語や技術の名称、ルールを理解しているか、健康な生活を送るための知識を習得しているかを評価する。 基本的な技術を習得し、それを実践できるか、また、試合や記録会で身に付けた知識や技能を生かして表現できるかを評価する。	定期テスト 実技テスト 試合の中で技能を発揮できているかどうかを観察
		思考・判断 ・表現	知識や技能を活用し、ペアやグループでの観察やタブレットの動画を見て、自身の課題を発見し、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりすることができるかを評価する。	定期テスト 学習カード グループ、ペアでの話し合い活動で仲間の課題や出来映えを伝えているかを観察
		主体的に学習に 取り組む態度	各領域に積極的に取り組むことを通し、自身の課題の発見や克服、記録の向上に努めている姿や仲間と協力している姿勢を評価する。	授業の観察 学習カード 保健ノートの 記述内容

【授業の進め方(授業のポイント)】

- ・準備運動や補強運動を通して、怪我の防止や基礎的な筋力や体力の向上に繋げる。
- ・基礎的・基本的な技術を習得に向けて、自他の課題と向き合いながら取り組む。
- ・ペアやグループの取り組みを積極的におこなう。
- ・話し合い活動や振り返りを通して、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりする。

【家庭学習について】

保健分野で学ぶ知識をもとにして、基本的な生活習慣の確立や健康な生活を送ること。

1学期		2学期		3学期	
【体育】 体づくり運動 新体カテスト ・自身の体力の課題を知る。 集団行動 ・集合隊形、整列の確認 陸上競技 ハードル走 ・自分に合ったインターバルで、リズムカルにハードルを越すことができる。 球技 バレーボール ・ゲームに必要な基本的技能を身につける。正しいフォームを習得する。 ・膝を使ってパスを送ることができる。	【体育】 器械運動 球技 武道 陸上競技 【保健】 1章 健康な生活と疾病の 予防①	マット運動 ・側方倒立回転や倒立、片足正面水平立ちなどの基本的な技を習得し、滑らかに演技することができる。倒立前転ができる。 ソフトボール ・基本的なバット操作とボール操作を習得する。 ・バットの芯に当ててボールを飛ばすために、スタンスやスイングの軌道を意識して練習に粘り強く取り組んでいる。 柔道 ・柔道の特性を理解し、基本動作(受け身)を習得する。後ろ受け身ができる。 長距離走 ・ペースを守って走り、記録を向上することができる。 ・健康には、運動・食生活・睡眠及び休養が深く関わっている事を理解し、健康の保持増進のために、自身がどのようにすれば良いか考えをまとめることができる。	【体育】 ダンス 球技 【保健】 2章 心身の機能の発達 と心の健康 【体育理論】 1章 運動やスポーツの多 様性	創作ダンス・現代的なリズムのダンス ・リズムの特徴を捉え、リズムに乗って全身で踊ることができる。 バスケットボール ・ゲームに必要な基本的技能を身につける。正しいフォームを習得する。レイアップシュートを打つことができる。 ・思春期の心と体の変化や性への関心に対して、どのように向き合えば良いのか、自身の考えをまとめることができる。 ・ストレスが心身に与える影響を理解し、心の健康のために自身ができる対処方法を考え、まとめることができる。 ・運動やスポーツには「する」「見る」「支える」「知る」という多様な関わり方や楽しみ方があることを理解し、自身が今後どのようにスポーツと関わっていくかを考え、まとめることができる。	

第1学年	教科名	使用教科書	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創るTechnology	担当教員	大槻 晃央
------	-----	-------	-------------------------------	------	-------

付けたい 資質・能力	社会の変化に対応する力 ～家庭や身の回りの生活の中で～	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての基礎的な理解とそれらに係る技能・材料と加工の技術と生活や社会、環境との関わりについての理解を図る。 ・等角図→説明書を読み取り、作品を立体的に把握する力があるか。 ・罫書き、切断、組立→加工実習における基本が習得できているか。	定期テスト 小テスト(製図) 罫書き(木材加工) 切断(木材加工実習) 組立(木材加工実習)
		思考・判断 ・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けているか。 →等角図では、自作で立体を描く、実際の大きさより縮図で描ける。実習では、技能習得に向けて改善策やアドバイスができる。	定期テスト 小テスト(製図) 自己評価シート(内容) プリント内の考察(内容)
		主体的に学習に 取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしているか。 →身の回りの物がどんな材料でできているか、どんな加工がされ、組み合わせられているかを調べたり、実習に意欲的に参加しているか。	プリントの記述 自己評価シート(内容) 夏休みの課題

【授業の進め方(授業のポイント)】
 ○板書を丁寧にしながら、授業内での補足や説明をしっかりとメモしていくこと。
 →大事な単語をプリントに記入する。自分の考えを書くスペースは間違っても良いので、そのとき考えたことを記入する。補足として、例え話や由来などを話すので、メモ欄や空いたところにメモをとれば、見返したときにわかりやすいプリントに仕上がる。
 ○実習では、工具の使い方動画やヒントを参考にし、練習の時間にしっかりと試すこと。
 →お手本動画や解説プリントをしっかりと見る、練習時間は積極的に取り組み、わからないことはちゃんと質問する。
 ○振り返りカードを丁寧に記入すること。
 →授業で学んだこと、疑問に思ったこと、質問などを記入しておけば、チェックした際、質問にコメントできたり、次の授業で全体に補足をしたり、個別で机間指導するなど、教師側も授業改善や修正ができます。各週の授業なので、実習のときには、次回の目標や予定を記入しておくこと、どの作業から始めれば良いかがすぐに思い出せて、スムーズに作業に取りかかれる。

【家庭学習について】
 ○プリントの単語だけを見るのではなく、説明できるくらい意味も確認しておく。
 →**教科書の各ページにQRコードがついているので、読み込んで、理解を深めておく。**
 →プリントに書いた補足や由来のメモが振り返りカードの記述や定期テストで活きる。
 ○実習で使った工具や使い方、決まりなどは必ず振り返っておくこと。
 →定期テストや次回の実習に活かせる。
 ○日常生活の中で、製品に利用されている材料について、なぜその材料が使われているかについて考えるようにする。
 壊れた物がなぜ壊れたのかを考える。
 →学習への理解が深まる。

1学期		2学期		3学期	
技術分野のガイダンス (1)材料と加工の技術の原理・法則と仕組み ①身の回りの材料と加工の技術 ②木材、金属、プラスチックの特性 ③材料に適した加工方法 ④丈夫な製品を作るために ⑤材料と加工の技術の工夫を読み取ろう ⑥製作品を構想し、設計しよう	→材料や加工の特性等、材料の製造、加工法等の基礎的な技術の仕組みについて理解し、その材料がなぜそこで利用されているのか、丈夫にするための構造について理解している。 →等角図の描き方を理解し、こちらが用意した立体を正確に図に表すことができる技能を身に付けている。	(2)材料と加工の技術による問題の解決 ①問題を発見し、課題を設定しよう ②製作品を構想し、設計しよう ③製作の計画を立てよう ④作業手順を考えて製作しよう	→構想を具体化して設計を具体化し、製作の過程や結果の評価、改善及び修正方法について理解し、けがきが正確に行えるか、切断で真つすぐ材料を切れるか、部品加工ではやすりを使い、加工面を水平にできるか等に生かすことができる。	(2)材料と加工の技術による問題の解決 ⑤問題解決の評価、改善・修正 (3)社会の発展と材料と加工の技術 ①材料と加工の技術の最適化 ②これからの材料と加工の技術	→構想を具体化して設計を具体化し、製作の過程や結果の評価、改善及び修正方法について理解し、釘の印が正しく描けるか、下穴を垂直に開けることができるか、組立において直角に接合できるか等に生かすことができる。 →製作実習を終え、材料と加工の技術で理解した内容を踏まえ、改良や応用について説明することができる。

第1学年	教科名	使用教科書	新編 新しい技術・家庭 家庭分野(東京書籍)	担当教員	中辻 佳子
------	-----	-------	------------------------	------	-------

付けたい 資質・能力	社会の変化に対応する力	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	生活の自立に必要な基礎的な知識理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。	定期テスト 実習 作品 レポート
		思考・判断・表現	自分事として問題を見だして課題を設定し、より良くする方法を考察し、実践・改善し論理的に表現したり発表するなど、これからの生活を解決する力を身に付けている。	定期テスト 作品 レポート
		主体的に学習に取り組む態度	自分や家族の生活を振り返りながら、よりよい生活の実現に向けて、自分ができる工夫を考えて生活を創造しようとする実践的な力を身に付けている。	定期テスト レポート 振り返りシート

【授業の進め方(授業のポイント)】

- ・授業の目標を確認する。
- ・学習内容は、自分の生活に当てはめながら考えたり、課題を見つけたりする。
- ・課題に集中して取り組み、授業時間内に提出や完成を目指す。自分らしさを入れる。
- ・苦手な活動であっても見本をよく見たりグループで交流したりするなど自己調整して、学びを進める。
- ・実習の欠席について、ロイロノートの資料箱に途中見本があるので、課題を進め後日提出する。
- ・授業の振り返りをする。

【家庭学習について】

- ・学習する分野において、家族や地域の人がしていることを、見てみる、聞いてみる、やってみる。
- ・新聞、ニュース、本、ネットなどを、興味を持って読んだり見たりする。
- ・学んだことを実践し、失敗しても原因を考えてもう1回チャレンジする。
- ・教科書のQRコードを読み込んで理解を深める。
- ・ロイロノートで配布された授業の板書や使用した資料を見直す。

1学期		2学期		3学期	
家庭分野のガイダンス	○ ガイダンス 「小学校で学んだことの振り返りと中学校3年間で学ぶこと」 「家族と家庭生活」	1編3章 調理のための食品の選択	○ 食生活 「食品の選択と購入」 「生鮮食品と加工食品の特徴」 「食品の保存と食中毒予防」 「肉の調理・魚の調理」(調理実習) bの姿・・・季節や添加物を考慮して、自分や家族に適した食品の選択ができる。安全で衛生的な肉、魚の調理ができ、実習で生じた課題から原因を考えて改善策を示している。	2編1章 衣服の選択と手入れ	「衣服の手入れと補修」 「衣服計画と必要な衣服の選択」 bの姿・・・衣生活を振り返り、計画的な選択と購入について自分の考えを記入する。取り扱い表示の内容を読み取ることができる。
1編1章 食事の役割と中学生の栄養の特徴	○ 食生活 「食事の役割」 「中学生に必要な栄養素」 「栄養素の働き、6つの食品群」 「献立作り」 (向日市給食献立コンクール)	1編4章 日常食の調理	bの姿・・・季節や添加物を考慮して、自分や家族に適した食品の選択ができる。安全で衛生的な肉、魚の調理ができ、実習で生じた課題から原因を考えて改善策を示している。	2編2章 生活を豊かにするために	○ 衣生活 「作って楽しい布作品」(製作) ポーチ ・まつり縫い ・スナップ付け bの姿・・・まっすぐ、等間隔の並縫い。表の縫い目がほとんど見えない等間隔のまつり縫い、玉止めを布の裏で行っている、正しいスナップの付け方。
1編2章 中学生に必要な栄養を満たす食事	bの姿・・・栄養素の働きと量に着目し、自分や給食の献立を作成する。	2編1章 衣服の選択と手入れ	○ 衣生活 「衣服の役割」 「私らしさとT.P.O.」 bの姿・・・T.P.O.に合った着用ができる。		

第1学年	教科名	使用教科書	三省堂 ニュークラウンI	担当教員	方山 海・比嘉 好美
------	-----	-------	--------------	------	------------

付けたい 資質・能力	五つの領域の言語活動を通してコミュニケーションを図る力	評価	評価の観点	評価の方法
【身に付く力】 聞くこと・・・必要な情報・概要・要点を聞き取ることができる。 読むこと・・・必要な情報・概要・要点を読み取る、または捉えることができる。 話すこと〔やりとり〕・・・関心のある事柄について、即興で伝え合うことができる。 話すこと〔発表〕・・・関心のある事柄について、即興で話すことができる。 書くこと・・・関心のある事柄について、正確に書くことができる。	【学習目標】 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと・読むこと・話すこと・書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを旨とする。	知識・技能	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、その内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする技能を身に付けている。	定期テスト パフォーマンステスト
		思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、必要な情報や概要、要点を聞いたり、読んだりして捉えている。 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話したり、書いたりしている。	定期テスト パフォーマンステスト
		主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、言語活動を通して主体的に伝えようとしている。	パフォーマンステスト リフレクション(振り返り)

【授業の進め方(授業のポイント)】

①スモールトーク等で単元または本時に関連づかせた関心のある出来事や、日常または社会の出来事について、個別または協働的に考えながら話したり、書いたりすることで表現力を身に付ける。

②単元または本時のゴール(目標)の共有を生徒とともにに行い、見通しを持って授業に取り組む。

③実際のコミュニケーションにおいて活用される知識・技能を身に付けるために、目的・場面・状況に応じて自分の考えを形成したり、深化させたり、さらに表現を選択したりして「論理的に表現」することを学ぶ。

⑤ふり返り:ゴール(目標)に照らし、どんなことができるようになったのかを振り返り、さらに次にどんなことができるようになるか、展望を持たせる。

【家庭学習について】

個別最適な学びを充実するため、

○テラトークを活用し、五領域を活用できるような課題を提示する。(学習時間の把握)

○生徒自らが主体的に取り組めるような「自身の課題」にもとづいた課題に取り組む。

1学期		2学期		3学期	
●Lesson1 About Me ・be動詞と一般動詞 ●Lesson2 My Hero ・can助動詞 ●Lesson3 My treasure ・be動詞の肯定文、否定文 ●Lesson4 My Summer Plans ・過去形(be動詞・一般動詞)	○出身地や好きなことについて話された内容を理解することができる。 ○あこがれの人物や好きな有名人について、事実や自分の考えなどについて話すことができる。 ○お気に入りの場所や店について、事実や自分の考えなどを正確に伝えることができる。 ○今年の夏休みにいきたい場所やそごでしたいことについて、事実や自分の考えなどを伝え合う技能を身につけている。	●Lesson5 Ms.Brown's Family ・三人称単数現在形 ●Lesson6 School Life in the U.S.A. ・現在進行形 ●Lesson7 Athletes with Spirit ・一般動詞の過去形(不規則)	○身近な人について、事実や自分の考えなどを正確に伝えることができる。 ○学校生活について、現在進行形の疑問文などを用いて、事実や自分の考えなどを正確に書くことができる。 ○アスリートが大切にしていることをまとめるために、(事実と筆者の考えに着目し、)スポーツの特徴について書かれた記事を読んで、要点を捉えることができる。	●Lesson8 Discover Japan ・be動詞の過去形 ●Lesson9 Emergency Food ・will/be going to(未来の表現)	○話し相手と会話を続けてよりよい関係を築くために、情報や説明をつけ加えながら、トークテーマについて相手の考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続することができる。 ○非常食について、事実や自分の考えなどを正確に書く技能を身につけている。